

令和2年度

事業報告

日本赤十字社滋賀県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
I 支部事業・一般会計決算概要	2
1 新型コロナウイルス感染症への対応	2
(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援	2
(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣	2
(3) 赤十字病院での感染者等受入れ	2
(4) 感染症対応のための医療機器の整備	2
(5) 地域赤十字奉仕団の主な取組み	3
(6) 啓発活動等	4
2 評議員会並びに監査等の実施	4
(1) 評議員会の開催	4
(2) 監査委員による監査の実施	4
(3) 日本赤十字社理事会・代議員会への参加	5
(4) 支部名誉職員名簿	6
3 全国赤十字大会	7
4 会議の開催	7
5 会員増強運動の推進と実績	8
(1) 会員増強運動の推進	8
(2) 令和2年度活動資金募集実績	8
(3) 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績	10
(4) 法人活動資金募集の実績	10
(5) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進	11
(6) 赤十字会員数	12
(7) 有功章等受章者数	12
6 災害救護活動	12
(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況	12
(2) 義援金、海外救援金の受付状況	13
(3) 救護資機材の整備	13
(4) 訓練及び研修	14
(5) 救護員の登録状況	14
(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況	15
7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及	15
(1) 救急法	15
(2) 健康生活支援講習	15
(3) 幼児安全法	16
(4) 水上安全法	16
(5) 講習指導員の研修	16

(6) 各種講習指導員数	16
(7) 防災教育の普及	17
(8) 滋賀県安全法指導員協議会	17
8 赤十字奉仕団	18
(1) 設団状況	18
(2) 地域赤十字奉仕団の活動	19
(3) 青年赤十字奉仕団の活動	22
(4) 滋賀県無線赤十字奉仕団・滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動	22
(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動	24
(6) 個人ボランティア	24
9 青少年赤十字	25
(1) 加盟校の状況	25
(2) 青少年赤十字指導者協議会都市支部長会の開催	25
(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況	26
(4) その他の会議・行事等	26
(5) 青少年赤十字全国指導者協議会会長の就任	27
(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業	27
(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行	27
10 看護師の教育	27
11 国際活動	28
(1) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施	28
(2) 令和2年度国際人道法普及セミナーへの参加	28
12 赤十字思想の普及	28
(1) 本社作成の広報資材の配布	28
(2) 支部作成の広報資材の配布	29
(3) 世界赤十字デー周知キャンペーン	29
(4) 主な広報活動	29
(5) 「ACTION！防災・減災」の実施	30
13 有功会	30
(1) 会員の数（個人・法人）	30
(2) 事業内容	30
14 一般会計決算概要	32
II. 医療事業・医療施設特別会計決算概要	33
1 大津赤十字病院	33
2 大津赤十字志賀病院	37
3 長浜赤十字病院	39
III. 血液事業概要	42
滋賀県赤十字血液センター	42

はじめに

昨年から、世界中で深刻な問題となっている新型コロナウイルス感染症は、日本でも多くの方が犠牲となり、人々の生活や経済に与えたダメージは計り知れないものがあります。

この未知の病との戦いに、日本赤十字社は、当初から総力を挙げて取り組みました。昨年2月の横浜港クルーズ船内への医療チームの派遣に始まり、7月には九州地方を中心とした豪雨災害が発生し、感染症のまん延下というこれまでにない困難な状況に遭遇された住民の方々に対して医療救護班を派遣するなどの災害救護活動を実施しました。

現在も、各地の赤十字病院での患者、感染者の受け入れを始めとして、ウイルスがもたらす不安や偏見などをなくすための啓発活動などに全力を尽くしておりますが、これら日赤の活動に対して、県内の各地からいただいた温かい励ましのお言葉や様々なご支援は、第一線で働くスタッフにどれほど勇気を与え、今日まで苦難に立ち向かうことができる心の糧となったことでしょうか。

コロナ禍については、今年になってワクチン接種が始まったものの、危険な変異株の出現など新たな展開を示しており、予断を許さない状況にあります。

また、私たち赤十字を取り巻く環境も、コロナ禍と時代の流れによる社会構造の変化が合わさって、一段と厳しさが増していることは否めません。

しかしながら、その中でも明治の時代から諸先輩により嘗々と築かれてきた、歴史と伝統のある赤十字の歩みを止めることなく、赤十字は「救うを託されている」団体であるということを信念として、柔軟な発想に立って考え、多くの課題に果敢に対応していく必要があると考えます。

この信念に基づき、滋賀県支部では、引き続き、社会のニーズの変化や地域の期待にあわせた赤十字活動を今後も展開してまいります。

コロナ禍と、それに伴う厳しい経済状況の中、赤十字活動を財政面で支えていただいている赤十字会員の皆様、活動推進の直接の担い手である赤十字奉仕団等ボランティアの皆様、赤十字活動を総合的に支えていただいている地区・分区等関係機関の皆様、並びに多くの県民の皆様には、日頃からの力強いご支援に心から感謝申し上げます。

ここに、令和2年度の日本赤十字社滋賀県支部事業を報告いたしますとともに、引き続き皆様方からの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年5月

日本赤十字社滋賀県支部

I 支部事業・一般会計決算概要

1 新型コロナウイルス感染症への対応

日本赤十字社は、全国の赤十字病院を中心に新型コロナウイルス感染症患者の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでいる。

医師・看護師が中心となって、ダイヤモンド・プリンセス号への救護班の派遣に始まり、赤十字病院での感染者の受け入れ・治療や感染拡大防止のための情報発信などに努めている。

滋賀県内においても、令和2年度は次のような活動を実施した。

(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援

滋賀県からの要請に基づき、感染者の入院先調整業務等を支援するため、以下のとおり滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへ大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣した。

派遣期間	活動場所	人数
4月8日～活動中	滋賀県危機管理センター	医師3人、看護師5人（現地指揮所を含む）、他7人

※派遣人数は実数

(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣

滋賀県からの要請に基づき、新たに立ち上げた軽症者等の宿泊療養施設（大津市および彦根市）での受け入れ支援のため、以下のとおり大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣した。

派遣期間	施設名	人数
4月25日～27日	大津赤十字病院	医師1人、看護師2人、事務2人（DMATとして派遣）
4月27日～29日	長浜赤十字病院	看護師2人、薬剤師1人、事務1人
5月13日～15日	長浜赤十字病院	看護師2人、事務2人
8月1日～6日	大津赤十字病院	看護師6人

(3) 赤十字病院での感染者等受入れ

大津、大津志賀、長浜の各赤十字病院では、厚生労働省をはじめ各行政機関からの要請に応じ、帰国者・接触者外来の設置や新型コロナ対策病床の拡充を行い、感染者等の受け入れと治療にあたっている。

＜参考＞ 病床数：大津20床、大津志賀22床、長浜20床

(4) 感染症対応のための医療機器の整備

滋賀県支部は、感染症対策にあたる赤十字病院の態勢強化を目的に、病院が整備する機器等の購入に対して支援金を交付した。各病院は、この支援金を活用して以下の機器を整備した。

ア 大津赤十字病院 300万円（人工呼吸器一式）

イ 大津赤十字志賀病院 300万円（医療用スクリーン、陰圧装置、等）

ウ 長浜赤十字病院 400万円（膀胱腎孟ビデオスコープ、等）

(5) 地域赤十字奉仕団の主な取組み

ア マスク作製

奉仕団	寄託先	枚数	活動人数(人)
滋賀県支部委員会	滋賀県	10,000	全団員
近江八幡市	一人暮らし高齢者	800	80
	近江八幡市社会福祉協議会	200	80
草津市	草津市社会福祉協議会	230	100
高島市(マキノ・新旭)	高島市	790	20
東近江市能登川	東近江市社会福祉協議会	200	15
	一人暮らし高齢者	900	100
東近江市蒲生	一人暮らし高齢者 (85歳以上)	89	17
竜王町	竜王町役場・竜王町社会福祉協議会	264	4

イ 感染症対策用品作製

奉仕団	用品名	寄託先	数量	活動人数(人)
長浜市長浜	フェイスシールド	長浜赤十字病院	35	21
高島市マキノ	防護用ガウン	高島市社会福祉協議会	40	6
	消毒用雑巾	社会福祉法人たかしま会	1,000	6
高島市安曇川	防護用ガウン	高島市社会福祉協議会	100	全団員
高島市今津	防護用ガウン	高島市介護サービス事業者協議会	30	17
高島市高島	防護用ガウン	高島市社会福祉協議会	40	12
東近江市永源寺	消毒用雑巾	高齢者施設 (4施設)	190	全団員
多賀町	消毒用雑巾	多賀町社会福祉協議会	400	100
	消毒用雑巾	高齢者・障がい者施設	300	100

ウ その他の活動

奉仕団名	活動内容
大津市	在宅高齢者を対象に運動不足解消のためビデオ体操会を実施
	団員対象に感染予防啓発活動を実施
	学区文化祭で市民に対し日本赤十字社の感染症への対応について周知
長浜市長浜	団員対象に新型コロナウイルス感染症研修会を実施
草津市	地域サロン参加対象の高齢者にかやくご飯 (959食) を配付
栗東市	市内小・中学校に手指消毒スプレー寄贈
	高齢者施設・ろう話学校に非接触型体温計寄贈
甲賀市甲賀町	児童養護施設に、マスク (10箱)・消毒液 (5本)・寄付金贈呈
高島市高島	小学5年生11人を対象に子どもマスクづくり教室を開催
東近江市八日市	全団員から集めたバスタオル800枚を介護等事業所へ寄贈
東近江市永源寺	ひとり親家庭・生活困窮者を対象に食料支援を実施
東近江市能登川	「一人暮らし高齢者のつどい」を中止し、参加対象者へ中学生・奉仕団メッセージを添えて、手づくりマスクと記念品を贈呈
竜王町	一人暮らし配食事業に、奉仕団手づくりメッセージカードを添付

(6) 啓発活動等

ア 資材による啓発活動

本社制作の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう～負のスパイラルを断ち切るために～」、「感染症流行期にこころの健康を保つために～隔離や自宅待機により行動が制限されている方々へ～」、「感染症流行期にこころの健康を保つために～隔離や自宅待機により行動が制限されている方の周りにいるあなたへ～」、「感染症流行期にこころの健康を保つために～高齢者や基礎疾患のある方とご家族へ～」を、地区長及び分区長並びに以下の法人に対して送付し、啓発活動を行った。

○送付先

- ・前年度10万円以上協力法人 30社
- ・有功会法人会員 53社
- ・寄付金付き自動販売機設置法人 2社
- ・活動資金用募金箱設置法人 5社

イ 特設サイトの開設

新型コロナウイルス感染症に対する滋賀県内の赤十字施設の取組みについて取りまとめた特設サイトを開設した。

特設サイトでは、大津・大津志賀・長浜の各赤十字病院と血液センターにおける取組みや各種ガイド、啓発動画を掲載し、情報発信を行った。

2 評議員会並びに監査等の実施

(1) 評議員会の開催

開催月	開催方法	議案等
(第1回) 令和2年7月	文書審議	第1号議案 令和元年度事業報告及び歳入歳出決算について (監査委員監査報告書を添付) 報告事項 1 近江八幡市地区における日本赤十字社会費の不明金について 2 新型コロナウイルス感染症に対する対応について
(第2回) 令和3年2月	文書審議	第1号議案 令和3年度事業計画について 第2号議案 令和3年度歳入歳出予算について 第3号議案 役員の選出について

(2) 監査委員による監査の実施

令和元年度の業務の管理及び執行並びに会計について監査委員による監査を実施した。

(日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の監査概要を添付 (ただし、滋賀県赤十字血液センターは除く))

ア 監査対象施設

日本赤十字社滋賀県支部

大津赤十字病院
大津赤十字志賀病院
長浜赤十字病院
滋賀県赤十字血液センター
(滋賀県赤十字血液センターは、業務監査のみ実施)

イ 監査実施日
令和2年6月26日(金)
令和2年7月13日(月)

ウ 監査会場
ながはま文化福祉プラザ、草津電機株式会社

(3) 日本赤十字社理事会・代議員会への参加

名称	開催方法	対象者	内 容
日本赤十字社 理事会	文書審議	北村理事	1 予算の補正について ① 一般会計歳入歳出予算
日本赤十字社 理事会	文書審議	北村理事	1 予算の補正について ① 一般会計歳入歳出予算 2 第96回代議員会に付議する事項について ① 役員の選出 ② 令和元年度事業報告及び収支決算の承認
日本赤十字社 第96回代議員会	文書審議	北村代議員、 中村代議員	1 役員の選出について 2 令和元年度事業報告及び収支決算の承認について
日本赤十字社 第97回代議員会	文書審議	坂口代議員 中村代議員	1 役員の選出について 2 令和3年度事業計画について 3 令和3年度収支予算について

(4) 支部名譽職員名簿

(敬称略)

役 職	氏 名	備 考
支 部 長	三日月 大 造	滋賀県知事
副 支 部 長	西 嶋 栄 治	滋賀県副知事
〃	小 棕 正 清	滋賀県市長会長・東近江市長
〃	伊 藤 定 勉	滋賀県町村会長・豊郷町長
本 社 理 事	欠 員	
本 社 代 議 員	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社代表取締役会長
〃	中 村 美尾枝	赤十字奉仕団滋賀県支部委員会顧問
支 部 監 査 委 員	漣 藤 寿	長浜市公平委員
〃	北 村 嘉 英	草津電機株式会社代表取締役会長
評 議 員	栗 田 克 俊	大津市地区選出
〃	竹 内 俊 彦	〃
〃	堀 井 和 美	〃
〃	大 久 保 貴 貴	彦根市地区選出
〃	圓 城 治 男	〃
〃	藤 井 勇 治	長浜市地区選出
〃	大 橋 香代子	〃
〃	小 西 理	近江八幡市地区選出
〃	欠 員	〃
〃	橋 川 渉	草津市地区選出
〃	清 水 和 廣	〃
〃	岸 年 江	守山市地区選出
〃	山 岡 龍 二	〃
〃	野 村 昌 弘	栗東市地区選出
〃	芝 原 道 子	〃
〃	岩 永 裕 貴	甲賀市地区選出
〃	嘉 郷 重 郷	〃
〃	栢 木 進	野洲市地区選出
〃	谷 畑 英 吾	湖南市地区選出
〃	福 井 正 明	高島市地区選出
〃	小 棕 正 清	東近江市地区選出
〃	大 塚 ふ さ	〃
〃	平 尾 道 雄	米原市地区選出
〃	堀 江 和 博	東近江地区選出
〃	有 村 国 知	湖東地区選出
〃	久 保 久 良	〃
〃	川 崎 辰 己	支 部 長 選 出 滋賀県健康医療福祉部長
〃	田 附 弘 子	〃 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長
〃	田 中 滋 規	滋賀県青少年赤十字指導者協議会長
〃	大 道 良 夫	日本赤十字社滋賀県支部有功会長

(令和3年3月31日現在)

3 全国赤十字大会

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席を賜り、毎年5月に東京都渋谷区の明治神宮会館において、来賓、赤十字会員の代表など約2,000人の出席のもと開催されている。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止になった。

4 会議の開催

名 称	開催日	会 場	対象及び出席者数	内 容
赤十字事務担当主任者会議	令和2年4月21日付	文書による開催	日赤事務担当主任者	1 赤十字のしくみと活動 2 令和2年度事業計画及び歳入歳出予算の概要 3 地区分区における業務について
赤十字施設業務連絡会議	令和2年5月8日(金)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)及び支部総務課長等 計8人	1 新型コロナウイルス感染症への対応 2 本年度支部監査委員による本監査 3 職員研修 ①滋賀県支部主催研修 ②第4ブロック主催研修 ③本社主催研修 4 寄付金付自動販売機の設置 5 第4ブロック支部合同災害救護訓練 6 令和2年度赤十字講習普及計画 7 今後の予定等 •職員の会員加入
赤十字施設業務連絡会議	令和2年12月9日(水)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)、及び支部総務課長等 計7人	1 新型コロナウイルス感染症への対応 2 令和2年度滋賀県支部・赤十字施設の監査の実施 3 職員研修 ①滋賀県支部主催研修 ②第4ブロック主催研修 ③その他 4 指定事業社資を活用した救護資機材整備計画 5 その他 ①寄付金付自動販売機の設置状況 ②全国赤十字大会への施設長等の参加 ③令和3年度訓練予定 6 今後の予定 •令和2年度評議員会 7 支部・施設人事交流推進委員会

赤十字 事務担当課 長（幹事） 会議	令和2年 12月4日(金)	滋賀県農業 教育情報 センター	担当課長等 16人 事務局 5人	1 令和2年度の主な取り組みについて 「令和2年度7月豪雨災害への対 応」動画視聴 2 新型コロナウイルス感染症への対応 について 3 令和2年度活動資金募集状況につ いて 4 令和3年度主要事業計画について 5 令和3年度赤十字奉仕団主要事業 計画(案)について
-----------------------------	------------------	-----------------------	---------------------------	---

5 会員増強運動の推進と実績

(1) 会員増強運動の推進

5月を「赤十字会員増強運動月間」として、ひとりでも多くの方々に赤十字の思想・活動を理解していただくとともに、赤十字会員への加入、高額活動資金や法人活動資金の拡充強化に努めた。

本年度会員増強運動に使用した資料は次のとおりである。

ア 赤十字会員増強運動実施要綱	100部
イ 小冊子（リーフレット）	6,000部
ウ ポスター	2,800部
エ 赤十字活動チラシ	517,000部
オ 赤十字会員募集のてびき	3,800部
カ 広報用DVD	25部
キ 活動資金領収書	138,200部
ク 法人に対する活動資金協力依頼状	15,500部
ケ 個人情報の取扱いに関する啓発パンフレット	3,400部
コ 法人向けチラシ	13,500部

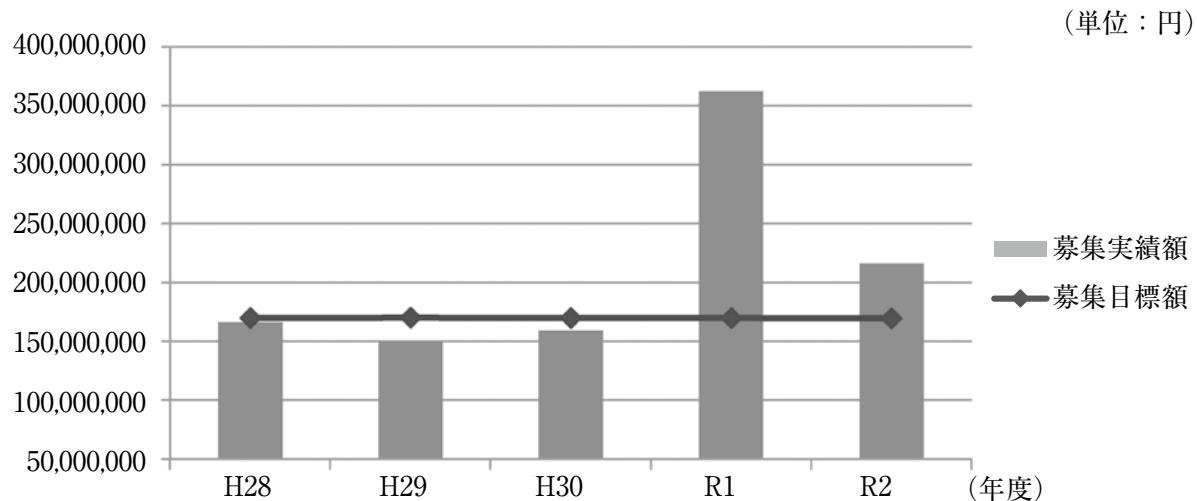
(2) 令和2年度活動資金募集実績

各市町の標準世帯数の40%以上を「500円会員」、28%以上を「1,000円会員」として募集することを目標とし、県民の支援と協力を依頼したところ県民各位や法人各社と地区区分の協力により、別表のような実績を上げた。

令和2年度活動資金募集実績

地区分区名		募集目標額 (A) (円)	地区分区・ 支部収納額 (B) (円)	支部による募集実績額内訳				収納額合計 G = B + C + D + E + F (円)	達成率 G/A	
				法人DM (C) (円)	個人DM (D) (円)	口座振替 (E) (円)	クレジットカード (F) (円)			
市 地 区	大津市	33,888,000	12,056,445	0	5,174,257	958,000	1,880,000	20,068,702	59.2%	
	彦根市	10,577,000	3,900,455	1,097,000	884,460	187,000	139,000	6,207,915	58.7%	
	長浜市	14,756,500	8,045,685	463,000	1,348,800	255,000	266,000	10,378,485	70.3%	
	近江八幡市	10,042,000	5,036,342	209,000	551,091	251,000	497,000	6,544,433	65.2%	
	草津市	6,691,000	5,021,557	0	2,607,165	397,000	820,400	8,846,122	132.2%	
	守山市	8,707,000	6,933,654	88,000	352,131	36,000	332,000	7,741,785	88.9%	
	栗東市	6,799,000	3,797,550	130,000	1,023,000	128,000	119,000	5,197,550	76.4%	
	甲賀市	12,104,500	7,868,975	707,048	493,683	44,000	20,000	9,133,706	75.5%	
	野洲市	5,840,500	4,195,281	65,000	274,000	70,000	22,000	4,626,281	79.2%	
	湖南市	5,959,000	3,274,882	573,375	256,500	51,000	38,000	4,193,757	70.4%	
	高島市	6,742,500	14,240,833	298,000	348,316	14,000	93,694	14,994,843	222.4%	
	東近江市	14,410,500	13,413,083	378,000	795,000	129,000	73,000	14,788,083	102.6%	
	米原市	5,614,500	5,323,600	249,000	573,707	58,000	2,000	6,206,307	110.5%	
	市地区計	142,132,000	93,108,342	4,257,423	14,682,110	2,578,000	4,302,094	118,927,969	83.7%	
地 区 分 区	東近江	日野町	2,797,500	2,508,990	102,000	68,000	0	2,000	2,680,990	95.8%
	竜王町		1,760,500	937,500	55,000	25,000	10,000	13,210	1,040,710	59.1%
	東近江計		4,558,000	3,446,490	157,000	93,000	10,000	15,210	3,721,700	81.7%
	郡	愛莊町	2,489,000	2,683,489	30,000	43,000	16,000	30,000	2,802,489	112.6%
	地	豊郷町	951,500	1,592,941	0	1,393,000	48,000	0	3,033,941	318.9%
	区	甲良町	1,093,500	918,000	70,000	40,000	0	0	1,028,000	94.0%
	湖	多賀町	1,164,000	1,068,395	20,000	116,000	0	0	1,204,395	103.5%
	東	湖東計	5,698,000	6,262,825	120,000	1,592,000	64,000	30,000	8,068,825	141.6%
	郡	地区計	10,256,000	9,709,315	277,000	1,685,000	74,000	45,210	11,790,525	115.0%
	地	区分計	152,388,000	102,817,657	4,534,423	16,367,110	2,652,000	4,347,304	130,718,494	85.8%
	区	支 部	17,246,000	69,985,122	15,438,912	96,003	0	0	85,520,037	495.9%
	分	支部・地区分区計	169,634,000	172,802,779	19,973,335	16,463,113	2,652,000	4,347,304	216,238,531	127.5%
	区	個人住民税寄付金 控除対象救援金	—	—	—	—	—	—	—	—
	分	施設使用 指定寄付金	0	8,156,076	—	—	—	—	8,156,076	—
	区	合 計	169,634,000	180,958,855	19,973,335	16,463,113	2,652,000	4,347,304	224,394,607	132.3%

最近5か年の募集目標とその実績



(単位：円)

	年 度	H28	H29	H30	R 1	R 2
◆	募集目標額	169,924,000	170,310,000	169,833,000	169,988,000	169,634,000
	(うち口座振替目標額)	(2,930,000)	(3,125,000)	(3,152,000)	(2,654,000)	(2,637,000)
	(うちクレジット目標額)	(994,000)	(1,185,000)	(681,000)	(1,920,284)	(997,000)
■	募集実績額	166,328,125	149,879,044	159,183,313	362,227,461	216,238,531

(上記募集実績額は管内赤十字病院等への使途指定寄付金は除く)

(3) 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績

過去に支部へ活動資金の協力があった個人をはじめ、本社から提供のあった義援金・救援金・海外たすけあい協力者を対象にダイレクトメールによる活動資金募集を行った。

	送付件数	応諾数	応諾率	協力金額
11月発送	7,110件	840件	11.8%	16,463,113円

(4) 法人活動資金募集の実績

ア 法人活動資金の実績

	予算額	実績額
指定寄付金	4,800,000円	4,800,000円
損金算入限度額特例拠寄付金	9,200,000円	30,430,549円
合 計	14,000,000円	35,230,549円

※指定寄付金として募集した額は、救護資機材等の整備費に充当した。

イ ダイレクトメール（DM）による募集

年2回（7月・11月）発送のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行った。

	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
7月 発送分	6,626件	364件	5.5%	12,943,698円
11月 発送分	6,240件	145件	2.3%	2,495,214円
合 計	12,866件	509件	4.0%	15,438,912円

【発送条件】

7月発送分：支部保有法人データ全件

- ①帝国データバンクから購入した売上高5千万円以上の法人
- ②草津市・旧志賀町の法人

11月発送分：7月にDMを発送した法人のうち、未応諾の法人

ウ 訪問による募集

今年度の訪問による募集については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、募集方法を振込方式に変更し実施した。

	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
17 地区分区	1,820件	583件	32.0%	4,534,423円

エ 法人会員向けステッカーの作成・配布

日本赤十字社を支援していただいている事実を表すために、法人会員向けステッカーを作成し、活動資金として2,000円以上のご寄付があった法人を対象に配布した。

(5) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進

企業・団体に対して、CSRの一環として募金箱や寄付金つき自動販売機の設置依頼や赤十字支援マークの使用などを通じた赤十字への支援を推進した。

ア 募金箱による協力

設置数 16か所（内、新規1か所）

金額 144,204円

イ 寄付金つき自動販売機による協力

設置数 26か所（内、新規3か所）

金額 1,674,933円

ウ 赤十字支援マークの使用

4法人

(6) 赤十字会員数

会員数（年額2,000円以上協力者）

	会員数	増減（前年度比）
個人（人）	4,597	538
法人（法人）	2,354	18
合計（人・法人）	6,951	556

（令和3年3月31日現在）

(7) 有功章等受章者数

（単位：人）

	個人	法人	合計
紺綬褒章	7	0	7
厚生労働大臣感謝状	2	1	3
社長感謝状	15	8	23
金色有功章	11	8	19
銀色有功章	11	9	20
支部長表彰状	18	14	32
特別社員章	503	0	503

（令和3年3月31日現在）

6 災害救護活動

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられ、また、災害救助法により国及び都道府県に対する救助への協力義務が規定されている。

滋賀県支部は、滋賀県と「災害救助法による救助等に関する委託契約書」を締結しており、避難所での生活環境の整備及び被災者に対するこころのケア、医療、助産及び死体の処理に関する事項を実施することとなっている。

令和2年度は、滋賀県支部が救護班等を派遣するような災害等は発生しなかったが、有事に円滑に対応できるように防災関連の諸会議に参加して関係機関との関係を強化するとともに、滋賀県の防災訓練に参加して救護員の育成に努めた。

(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況

地震、火災、風水害などの自然災害、人為災害時に全壊、全焼、流出の世帯に対し、支部備蓄の救援物資の配布や死亡者に対して弔慰金を配分する。

令和2年度は次のとおり救援物資及び弔慰金の配分を行った。

ア 災害救援物資

物資名	数量	物資名	数量
毛布	26枚	大判タオル	20本
緊急セット	8個	タオル	21本

イ弔慰金

4件：死者5人、配分額 50,000円

(2) 義援金、海外救援金の受付状況

期間/平成23年3月～令和3年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
東日本大震災義援金	5,083件	1,302,780,855	日本赤十字社本社

期間/平成28年4月～令和3年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
平成28年熊本地震災害義援金	1,739件	175,721,783	日本赤十字社本社

期間/平成29年4月～令和3年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	319件	19,073,704	日本赤十字社本社

期間/平成30年4月～令和3年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
平成30年7月豪雨災害義援金	629件	46,113,488	日本赤十字社本社

期間/平成31年4月～令和3年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
令和元年8月豪雨災害義援金	123件	2,535,346	日本赤十字社本社
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	138件	5,139,885	日本赤十字社本社
令和元年台風第19号災害義援金	380件	25,655,836	日本赤十字社本社

期間/令和2年4月～令和3年3月

名称	件数	金額(円)	送金先
令和2年7月豪雨災害義援金	282件	26,090,495	日本赤十字社本社
令和3年2月福島県沖地震災害義援金	53件	646,352	日本赤十字社本社
海外救援金（無指定）	1件	3,000	日本赤十字社本社

(3) 救護資機材の整備

災害対応能力強化のための資機材として、県内医療施設に非接触型体温計、パルスオキシメーター、非常食、トイレセット、エアストレッチャー等を整備した。

また、医療セット（薬品セット）の維持管理にかかる薬品を補充した。

(4) 訓練及び研修

ア 滋賀県総合防災訓練

8月30日、東近江市で実施され、滋賀県支部では「現地災害対策本部設置及び現地合同本部連絡会議運営訓練」、「避難所開設・運営・環境改善訓練」、「避難所における新型コロナウイルス感染症発生等対応訓練」に参加した。

【参加者数】

救護班要員等…………… 29人

(滋賀県支部2人、大津赤十字病院18人、長浜赤十字病院9人)

滋賀県防災支援赤十字奉仕団員…………… 9人

イ 新型コロナウイルス感染症禍における避難所運営実地研修兼訓練…………… (滋賀県主催)

7月28日、高島市で滋賀県主催による「新型コロナウイルス感染症禍における避難所運営実地研修兼訓練」が行われ、滋賀県支部は、感染症対策の知識の向上と課題の洗い出し、避難所運営の実践経験の蓄積などを目的に参加した。

【参加者数】

滋賀県支部、大津赤十字病院…………… 5人

ウ 日本赤十字社本社主催の災害救護関係研修会への参加

こころのケア指導者養成研修

災害時におけるこころのケア活動は、救護活動における重要な柱のひとつであり、その要員を養成する「こころのケア研修」の指導者を養成することを目的として実施されており、滋賀県からは大津赤十字志賀病院から1人の参加者があった。

エ こころのケア研修

被災者及び救援者である救護員へのこころのケアの重要性について理解を深めるとともに、救護員自身のこころのケアに関する対処方法を取得することを目的として実施した。

長浜赤十字病院	
実施日	8月1日
修了者人数	31人
指導スタッフ	8人

(5) 救護員の登録状況

常備救護班は医師の班長1人、看護師長1人、看護師2人、主事1人、自動車操作要員1人の計6人を基本構成として1班とし、大津赤十字病院に4個班、大津赤十字志賀病院に1個班、長浜赤十字病院に3個班を常備編成している。

(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況

ア 救護資機材整備状況

品 名	保有数	品 名	保有数
災害救援車	2	業務用無線基地局	2
災害用通信指令車	2	車載型業務用無線機	15
救護所用大型テント	2	携帯型業務用無線機	25
救護所用テント空調装置	2	車載型衛星電話	1
天幕 (3.6m×5.4m)	6	衛星携帯電話	3
エアーテント (大・小)	2	病院前除染設備一式	2
ワンタッチテント	7	医療セット一式	8
担架	24	移動式炊飯器	2
担架架台	5	救護員用雨具	60
折り畳み寝台	31	救護員用防寒具	60
発電機	4	救護員用寝袋	18

イ 災害救援物資の備蓄状況

品 名	保有数	品 名	保有数
毛 布	9,512	大判タオル	546
緊急セット	1,127	タオル	462
安眠セット	367	タオルケット	1,199

7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及

(1) 救急法

日常生活などで不慮の事故にあった際、医師などに引き渡すまでの応急手当や救命手当を赤十字奉仕団、学校、企業等を対象に実施した。令和2年度の実施状況は次のとおり。

区 分	実施回数	受講人数
一般普及講習（基礎講習）	9回	98人
短期講習	56回	1,344人

(2) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進の思想と、高齢者の自立をめざした介護の方法を指導するもので、赤十字奉仕団、一般住民を対象に行った。令和2年度の実施状況は次のとおり。

区 分	実施回数	受講人数
短期講習	1回	20人

(3) 幼児安全法

子どもを社会の財産として大切に育てるため、子どもに起こりやすい事故に対する応急手当の方法と事故防止、家庭内での看病の方法を中心として子育て支援関係者、保育園・幼稚園の職員、福祉施設の職員等を対象に行った。令和2年度の実施状況は次のとおり。

区分	実施回数	受講人数
短期講習	10回	246人

(4) 水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得するもので、学校関係職員を対象に実施した。

区分	実施回数	受講人数
短期講習	1回	11人

(5) 講習指導員の研修

昨年度に養成した新任講習指導員に対し、学科や実技の指導展開について研修を実施した。

ア 救急法新任指導員研修

実施日	会場	参加人数
8月18日	大津赤十字病院	7人
9月12日	滋賀県支部	8人
9月27日	滋賀県支部	2人
11月6日	長浜赤十字病院	5人

イ 幼児安全法新任指導員研修

実施日	会場	参加人数
8月28日	滋賀県支部	7人

(6) 各種講習指導員数

講習種別	ボランティア	職員	総数
救急法	108人	63人	171人
水上安全法	23人	1人	24人
健康生活支援講習	12人	22人	34人
幼児安全法	16人	28人	44人

(7) 防災教育の普及

近年の防災・減災に対する関心の高まりをうけ、地震や風水害などの自然災害に対しての正しい知識や災害時の備えなどを学ぶ防災教育を、学校、地域、赤十字奉仕団等に対して実施した。令和2年度の実施状況は次のとおり。

対象	実施回数	受講者数（人）
自治会等	6	211
赤十字奉仕団	12	676
学校関係	8	297
企業	1	20
その他	5	151
合計	32	1,355

(8) 滋賀県安全法指導員協議会

救急法・水上安全法の指導員資格を有する者をもって会員とし、講習普及や人命尊重と苦痛の軽減に寄与することを目的に結成されており、支部の講習計画に基づき、県内の講習普及に努めている。

会員数は、救急法171人、水上安全法24人の計195人（重複者8人）

名称	期日等	出席者	内 容
第1回役員会	書面審議	—	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和元年度事業報告ならびに収支決算 2 令和元年度講習実施状況について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和2年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）</p>
定期総会	書面審議	—	<p>1 令和元年度事業報告ならびに収支決算 2 令和2年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）</p>
第2回役員会	12月24日	7人	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和2年度事業実施状況について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和3年度事業計画（案）について</p>

8 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町の地域毎につくられる地域奉仕団と社会人や学生などによって組織された青年奉仕団、また特殊技能者が集まった特殊奉仕団がある。

赤十字奉仕団は、赤十字思想の普及や災害救護など、赤十字事業の推進にあたるとともに、地域の状況に応じた福祉活動など幅広い活動を展開している。

(1) 設団状況

ア 地域奉仕団

地域別	団数(団)	分団または班数(団または班)	団員数(人)		
			男	女	計
市	43	504	757	11,864	12,621
町	7	84	111	1,539	1,650
計	50	588	868	13,403	14,271

イ 青年奉仕団

名 称	団員数(人)		
	男	女	計
滋賀県青年赤十字奉仕団はなまる	2	3	5
大津赤十字看護専門学校学生奉仕団めだか	8	83	91
計	10	86	96

ウ 特殊奉仕団

名 称	団員数(人)		
	男	女	計
滋賀県無線赤十字奉仕団	14	1	15
滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団	62	20	82
滋賀県防災支援赤十字奉仕団	33	18	51
計	109	39	148

(2) 地域赤十字奉仕団の活動

ア 赤十字奉仕団結成70周年記念滋賀県赤十字奉仕団大会

滋賀県に赤十字奉仕団が結成されて70周年を迎えることを記念し、また、人道博愛と奉仕の赤十字精神を高め、趣旨の徹底を図り、社会貢献することを目的として開催された。

①赤十字奉仕団大会準備委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
8月12日	常任委員 8人 指導講師 3人	滋賀県支部 会議室	1 赤十字奉仕団滋賀県支部委員長表彰の受章者の選考について 2 活動報告者の選定について 3 記念品について
9月2日	常任委員 8人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 前日・当日スケジュールおよび役割分担について 2 受章者の決定および受章者代表について 3 大会宣言について 4 受章者代表謝辞について

②赤十字奉仕団結成70周年記念滋賀県赤十字奉仕団大会

開催日	参加者数	会 場	内 容
10月23日	来賓・ 奉仕団員 104人	守山市民 ホール	• 奉仕功労表彰 (50団、49人) • 奉仕団活動報告 「奉仕団再建と団員増強の軌跡」 東近江市蒲生赤十字奉仕団 「持続可能な団運営を目指して」 竜王町赤十字奉仕団 「2012年からの東北ボランティア活動で学んだことを地域社会へ還元する活動」 滋賀県立八日市南高等学校 • 講演「今、私が感じる赤十字奉仕団」 比叡山延暦寺大靈園 園長 小堀 光實 師

イ 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
4月14日	県支部委員 12人 指導講師 2人	滋賀県支部 会議室	1 新役員の選出について 2 令和元年度事業報告及び会計収支決算について 3 令和2年度事業計画及び会計収支予算について 4 重点目標事業交付金について 5 赤十字奉仕団基本目標について 6 赤十字奉仕団結成70周年記念滋賀県赤十字奉仕団 大会について 7 マスク配布プロジェクト事業について
1月21日	県支部委員 13人 指導講師 3人	滋賀県支部 会議室	1 令和2年度事業の実施状況および決算見込みにつ いて 2 令和3年度事業計画(案)および予算(案)について

ウ 赤十字奉仕団滋賀県支部常任委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
5月13日	常任委員 7人	滋賀県支部 会議室	1 赤十字奉仕団員研修旅行の実施について
7月1日	常任委員 8人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	1 赤十字奉仕団結成70周年記念滋賀県赤十字奉仕団 大会の開催について
3月12日	常任委員 8人 指導講師 5人	滋賀県支部 会議室	1 赤十字奉仕団基本目標について 2 令和3年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会につ いて 3 赤十字奉仕団斡旋物資について 4 報告事項 • 「オンライン語り部LIVE」の開催について • 研修動画の制作について • ゆうちょ口座の開設について

エ 指導講師連絡会

開催日	参加者数	会 場	内 容
11月19日	指導講師 5人	滋賀県支部 会議室	1 奉仕団研修動画の制作について
1月13日	指導講師 5人	滋賀県支部 会議室	1 奉仕団研修動画の制作について (1) 内容について (2) 紹介用名称について (3) 制作日程について

オ 赤十字奉仕団中央委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
12月3日	県支部 委員長	Web会議	1 各ブロックの参加者紹介、活動状況の報告 2 ボランティア活動充実のための体制作り検討会に かかる報告 3 新型コロナウイルス感染症にかかる活動について <意見交換会>

カ 赤十字奉仕団中央委員会常任委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
2月24日	県支部 委員長	Web会議	1 令和3年度赤十字奉仕団中央委員会日程及び 協議事項について 2 役員改選について

キ 赤十字奉仕団一日研修会

奉仕団員の意識を高揚し、眞の奉仕者組織としての健全な奉仕団の育成を期するため、今年度も13郡市地区が、それぞれの主催で一日研修会を開催し、団活動についての講演、DVD上映、事例発表等を行った。

地区別	開催日	人数（人）	地区別	開催日	人数（人）
大津市	中止		彦根市	11月10日	54
長浜市	11月11日	77	近江八幡市	11月14日	125
草津市	12月2日	50	守山市	11月5日	120
栗東市	11月6日	35	甲賀市	10月9日	50
野洲市	10月31日	60	湖南市	10月15日	35
高島市	7月3日	87	東近江市	11月26日	110
米原市	10月28日	53	東近江	11月5日	56
湖東	中止				

ケ 赤十字奉仕団広報紙の発行

発行日	発行号	発行部数（部）
12月10日	第60号（大会記念号）	20,200
3月15日	第61号	20,200

コ 重点目標事業の推進

赤十字奉仕団重点目標に関連した奉仕団活動の活性化を図るため、2団を対象奉仕団として指定し、助成を行った。

実施期間	奉仕団名	交付額（円）
令和2年4月1日～令和4年3月31日	長浜市湖北	25,000
	近江八幡市	25,000
合計		50,000

サ 滋賀県「手づくりマスク配布プロジェクト」への協力

新型コロナウイルス感染症の拡大によりマスクが不足する中、滋賀県から依頼を受け、全奉仕団が1万枚のマスクの縫製を実施した。

実施日	参加者	人数（人）	活動内容
5月7日	大津市赤十字奉仕団員	6	マスク型紙作成
5月12日	大津市赤十字奉仕団員	11	材料（布・ゴム）裁断作業
5月13日	常任委員	7	材料（布・ゴム・チャック袋）
	大津市赤十字奉仕団員	11	奉仕団別に仕分け・発送
6月2日	県支部委員会正副委員長	3	滋賀県知事へ手づくりマスク10,000枚寄託

シ 「赤十字旗のうた」及び「別れの歌」音源・音声収録

各奉仕団総会や研修会等で活用する「赤十字旗のうた」及び「別れの歌」を、大津市赤十字奉仕団員の協力を得てCDに収録し、県内全奉仕団に配付した。

(3) 青年赤十字奉仕団の活動

事業名	開催日	参加人員	場所
第1回連絡協議会	5月31日	5人	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 代表者会議（Web会議）	6月27日	3人	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第1回役員会（Web会議）	9月12日	1人	滋賀県支部
第2回連絡協議会	10月7日	6人	滋賀県支部
第1回滋賀県赤十字奉仕団研修会	10月17日	13人	滋賀県危機管理センター 1F大会議室
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第2回役員会（Web会議）	11月25日	1人	自宅からの参加
第4ブロック青年赤十字奉仕団 リーダー養成研修会（オンライン研修）	11月28日	9人	滋賀県支部
海外たすけあい街頭募金活動	12月5日	8人	石山駅
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第3回役員会（Web会議）	2月27日	1人	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会 第4回役員会（Web会議）	3月20日	1人	滋賀県支部

(4) 滋賀県無線赤十字奉仕団・滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動

令和2年度においては、滋賀県総合防災訓練への運営協力および参加、防災学習の指導、研修会への参加など活動を展開した。主な活動は下表のとおり。

事業名および参加行事	開催日	参加人員	場所
広報紙「赤十字しが」紙面検討会	6月17日	3人	滋賀県支部会議室
守山市赤十字奉仕団防災学習	7月27日	3人	守山市防災センター
新型コロナウイルス感染症にかかる避難所実地研修	7月28日	1人	高島市安曇川支所
滋賀県立総合保健専門学校防災学習	7月29日	2人	滋賀県立総合保健専門学校
滋賀県総合防災訓練打ち合わせ	7月30日	2人	滋賀県支部会議室
サンサン・ネット東桜谷防災学習	8月4日	1人	東桜谷公民館
滋賀県総合防災訓練打ち合わせ	8月18日	2人	滋賀県支部会議室
高島市朽木児童民生委員防災学習	8月22日	3人	高島市役所朽木支所 2F会議室
日野町教育委員会生涯学習課防災学習	8月31日	3人	日野町わたむきホール
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	9月9日	4人	近江八幡市総合福祉 センター
滋賀県総合防災訓練会場打ち合わせ	9月19日	7人	東近江市布引体育館
滋賀県総合防災訓練	9月20日	9人	東近江市布引体育館

守山市社会福祉協議会防災学習	9月25日	4人	守山市すこやかセンター
米原市立米原中学校防災学習	10月9日	4人	同校体育館・武道場
湖南市甲西赤十字奉仕団防災学習	10月15日	2人	湖南市社会福祉協議会
滋賀県赤十字奉仕団研修会	10月17日	21人	滋賀県危機管理センター
近江八幡市赤十字奉仕団岡山分団防災学習	10月24日	5人	岡山コミュニティーセンター
日赤野洲市地区防災学習	10月31日	5人	野洲市防災センター
守山市各種団体連絡協議会防災学習	10月31日	2人	守山市河西会館
日赤守山市地区防災学習	11月5日	2人	守山市民ホール 小ホール
高島市地区委員会防災学習	11月6日	3人	高島市役所大会議室
日野町商工会議所防災学習	11月9日	1人	日野町商工会議所
滋賀県立八幡高等学校防災学習	11月10日	3人	同校セミナーハウス
あかね防災キャンプ2020実行委員会 防災学習	11月13日	2人	東近江市立 蒲生北小学校体育館
滋賀県立八幡高等学校防災学習	11月17日	4人	同校セミナーハウス
滋賀県幼稚園連絡協議会 第3ブロック防災学習	11月18日	2人	近江八幡市立金田幼稚園
あかね防災キャンプ2020実行委員会 防災学習	11月20日	2人	東近江市立 蒲生西小学校体育館
東近江市永源寺赤十字奉仕団防災学習	11月22日	1人	東近江市永源寺 コミュニティーセンター
西桜谷地区人権啓発推進協議会防災学習	11月23日	2人	西桜谷公民館
滋賀県立八幡高等学校防災学習	11月24日	4人	同校セミナーハウス
あかね防災キャンプ2020実行委員会 防災学習	11月27日	2人	東近江市立 蒲生東小学校体育館
守山市社会福祉協議会防災学習	11月30日	4人	守山市防災センター
草津市赤十字奉仕団防災学習	12月2日	2人	草津市社会福祉協議会
第4ブロック合同災害救護訓練打ち合わせ	12月9日	1人	三木市防災センター
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	12月12日	2人	近江八幡市総合福祉 センター
東近江市五個荘地区まちづくり協議会 防災学習	1月23日	1人	五個荘コミュニティーセンター
滋賀県ボランティアコーディネーター研修	1月29日	3人	滋賀県危機管理センター
甲良町立甲良中学校防災学習	2月16日	4人	甲良町立甲良中学校体育館
守山市赤十字奉仕団守山分団防災学習	2月22日	1人	守山公民館
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	3月13日	1人	近江八幡市総合福祉 センター
東日本大震災から10年プロジェクト 赤十字奉仕団対象 「オンライン語り部LIVE」	3月25日	4人	支部会議室
東近江市能登川赤十字奉仕団防災学習	3月28日	1人	能登川コミュニティーセンター

※各奉仕団の定期総会は文書審議で実施。

※上記のほか、防災支援奉仕団の役員会をWeb会議で10回開催。

(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動

ア 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団総会（書面審議）

開催日	参加者数	会 場	内 容
8月12日	84人		<p>【協議事項】 令和元年度事業報告並びに収支決算について 令和2年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について</p> <p>【報告事項】 令和元年度及び令和2年度における入団者及び退団者等の数について 滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告について</p>

イ 広報委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
10月7日	4人	日赤滋賀県支部会議室	賛助奉仕団しが第34号編集発行について
11月27日	4人	日赤滋賀県支部会議室	賛助奉仕団しが第34号原稿の校正について

ウ その他の会議、行事参加

開催日	出席者数	会 場	事 業
11月5日	2人	東近江市立市原小学校	JRC研究推進委嘱校研究発表会への参加

エ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団広報紙「JRC賛助奉仕団しが」の発行

発行日	号数	部 数 (部)	内 容
7月20日	第33号	400	令和2年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団事業計画、滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会案内等
12月22日	第34号	400	滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校活動紹介 JRC実践活動報告等

(6) 個人ボランティア

赤十字事業の推進を目的として、赤十字病院、血液センターなど県内の赤十字施設において、直接その事業に奉仕するボランティアとして、昭和53年4月から登録されている。

施 設 名	人 数	活 動 内 容
大津赤十字病院	47人	総合案内のお手伝いや図書の貸出し、衛生材料の整理、コンサート開催など
大津赤十字志賀病院	14人	音楽会、お誕生日会の開催、お話相手、園芸など
長浜赤十字病院	64人	外来者の受付や案内、入浴介助など
滋賀県赤十字血液センター	104人	献血者への文書発送手伝いなど

9 青少年赤十字

青少年のうちから赤十字の精神を養い、世界各国の青少年と手を結んで健康と安全の増進、国際親善などの行いによって青少年の健全育成を図るため、小・中・高等学校の児童、生徒を対象として学校内で組織されたものが青少年赤十字である。現在世界の赤十字加盟は192カ国で、その多くの加盟国で青少年赤十字が取り入れられている。

(1) 加盟校の状況

区分	校種別	令和2年度	前年度比
園、学校数	幼稚園等	10	△3
	小学校	150	△11
	中学校	42	△6
	義務教育学校	2	1
	高等学校	15	△3
	特別支援	1	0
	総数	220	△22
学級またはグループ数	幼稚園等	62	△21
	小学校	2,073	△221
	中学校	611	△86
	義務教育学校	12	6
	高等学校	168	△13
	特別支援	54	△1
	総数	2,980	△336
児童・生徒数(人)	幼稚園等	1,403	△453
	小学校	48,145	△5,833
	中学校	17,890	△2,568
	義務教育学校	134	39
	高等学校	5,956	68
	特別支援	367	5
	総数	73,895	△8,742

(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催

開催日	会場	出席者数(対象者)	協議事項
7月29日 (書面審議)		18人	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和元年度青少年赤十字事業報告について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和2年度青少年赤十字事業計画(案)について</p> <p>2 役員改選(案)について</p>
3月11日	支部会議室	10人	<p>【協議事項】</p> <p>1 令和3年度青少年赤十字主要行計画(案)について</p> <p>2 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて</p>

(3) 本社及びブロック主催の講習会、研修会開催状況

区分	主催	開催日	開催場所	参加者
指導主事対象青少年赤十字研究会(Web)	日本赤十字社本社	1月8日	日本赤十字社本社	県内参加者1人 (全参加者57人)

(4) その他の会議・行事等

区分	開催日	会場	出席者数 (対象者)	備考
滋賀県青少年赤十字指導者協議会第72回定期総会 (書面審議)	9月25日		268人	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度事業報告 令和2年度事業計画(案) 役員改選について
青少年赤十字全国指導者協議会・総会 (Web)	9月11日		1人 (会長)	<ul style="list-style-type: none"> 役員改選 報告事項 青少年赤十字 「最近の取り組みと今後の動き」 青少年赤十字活動報告 グループディスカッション 「青少年赤十字創設100周年に向けて」
滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校活動紹介及び青少年赤十字指導者研修会	11月5日	東近江市立市原小学校	38人	<ul style="list-style-type: none"> 加盟校表彰 令和元・2年度の滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱を受けた同校による2年間の活動発表 講演 「日本赤十字社と学校教育の関わりについて」 日本赤十字社 事業局 パートナーシップ推進部 青少年・ボランティア課長 藤枝 大輔 氏
指導部役員会	12月22日	滋賀県支部会議室	5人	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度青少年赤十字主要事業報告 令和3年度主要事業計画(案) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクトについて 滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて JRCしが第27号の編集について 滋賀県青少年赤十字指導者協議会定期総会について 滋賀県青少年赤十字創設100周年事業について

(5) 青少年赤十字全国指導者協議会会長の就任

守山市立守山小学校長であり、滋賀県青少年赤十字指導者協議会会長の田中滋規先生が令和2年4月1日から令和4年3月31日までの2年を任期とし、青少年赤十字全国指導者協議会会長に就任された。

(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業

青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、青少年赤十字活動の一層の振興を図ることをねらいに実施し、下記のとおり助成を行った。

・一般枠

区分	件数	助成額
小学校	5件	160,000円
高等学校	1件	50,000円
合計	6件	210,000円

(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行

滋賀県内の青少年赤十字活動を広く周知するため、JRCしが（No.26）を4月1日に発行し、県内の全小中高等学校等に配布して普及に努めた。

10 看護師の教育

赤十字看護師の教育は、明治29（1896）年からの長い歴史と伝統を誇る重要な事業の一つであり、災害救護業務の要員を確保するとともに、医療施設の要員充足をはかり、併せて看護師不足に対応すべく優秀な看護師を社会に送り出すことを目的としている。

大津赤十字看護専門学校は大津市小関町に設置され、1学年養成定員を40人とし、本年度は下記のとおり養成した。

令和2年度の養成人員				令和2年度 迄の養成人員
1年	2年	3年	計	
25人	37人	28人	90人	3,298人

11 国際活動

(1) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施

令和2年12月1日から25日の間、令和2年度「NHK海外たすけあい」キャンペーンを本社・支部・赤十字病院・血液センターはもとより、NHK各放送局、全国の郵便局、各金融機関等の協力を得て実施した。また、12月1日(火)に滋賀県共同募金会と支部職員がJR大津駅前広場にて「NHK歳末・海外たすけあい」街頭募金活動を行った。

本キャンペーンの募金額は下記のとおりであり、この資金をもとに、日本赤十字社が世界各地の紛争や自然災害、病気で苦しむ人々への支援のための国際救援事業や開発協力事業を行った。

実績内訳

区分		件数(件)	金額(円)
滋賀県	支部・施設等窓口扱い分	1,227	3,223,088
	本社扱い分	301	3,626,915
	合計	1,528	6,850,003
全国	支部・施設等窓口扱い分	40,340	91,048,427
	本社扱い分	46,624	659,339,756
	合計	86,964	750,388,183

(2) 令和2年度国際人道法普及セミナーへの参加

令和3年2月15日～17日、日本赤十字社本社主催による同セミナーがオンライン形式で開催され、支部職員1人が参加した。

12 赤十字思想の普及

赤十字の理念や赤十字の活動について県民の理解を深め、一層の協力を得るため、5月の運動月間を始め、年間を通じて広報活動を展開した。

(1) 本社作成の広報資材の配布

名称	作製目的・主な内容	主な配布(視聴)対象
活動紹介用リーフレット	赤十字活動のPRと会員募集(6,000部)	地区・分区、各施設ほか
赤十字運動用PRポスター	赤十字活動のPRと会員募集(2,800部)	地区・分区、各施設ほか
赤十字NEWS	日本赤十字社広報紙(38,900部)	赤十字会員、赤十字関係者
活動紹介DVD	日本赤十字社活動紹介DVD「赤十字この一年」	地区・分区、各施設

(2) 支部作成の広報資材の配布

名称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動資金募集用チラシ	赤十字活動のPRと会員募集（517,000部）	一般
支部広報誌「赤十字しが」	滋賀県支部の事業実施状況報告（15,000部）	赤十字会員、奉仕団、地区・分区、各施設ほか
赤十字PRパネルB0版	赤十字活動のPRと会員募集	各施設
事業報告書	滋賀県支部の事業実施状況報告	支部役員・評議員、地区・分区、各施設
ポケットティッシュ	赤十字活動PRと地域奉仕団員募集（31,500個）	地区分区、奉仕団、各施設
赤十字パネル	赤十字活動紹介パネル	奉仕団、地区・分区、各施設ほか

(3) 世界赤十字デー周知キャンペーン

ア 赤十字フラッグの掲揚

期間 5月1日～5月30日

場所 彦根市役所前道路、夢京橋キャッスルロード

(4) 主な広報活動

ア テレビスポットによる広報

びわ湖放送株式会社様のご協力を得て、以下のとおりテレビスポットによる広報を実施した。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放映）
- ・TV-CM15秒／30秒

イ JR駅構内でのB1ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～31日

ウ 京阪電車へのA3ポスターの掲出

- ・期間 2月1日～1月31日（年間）

エ 近江鉄道、スーパー等でのB2、B3ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～31日

オ 懸垂幕の掲出

- ・場所 日本赤十字社滋賀県支部事務所ビル横
- ・内容 人間を救うのは、人間だ。－赤十字活動資金に協力下さい。－

カ 広報用ポスターパネルの制作

12種類のポスターパネルを制作し、イベントや支部玄関ホールで掲示した。

キ 支部ホームページの更新

不特定多数の方々にPRが図れる広報媒体であることから、当支部をはじめとする日本赤十字社の活動紹介、救急法等の健康・安全講習の案内、青少年赤十字活動の紹介など、更なる赤十字活動の発信に努めた。

(5) 「ACTION！防災・減災」の実施

「ACTION！防災・減災」は、東日本大震災から10年が経つ令和3年3月11日を機に、改めて日本赤十字社から防災・減災のメッセージを打ち出し、「風化防止」や「復興支援」にとどまらず、未来に目を向けた「防災・減災への備え」を訴求し、防災意識を高める取り組みとして実施した。

ア 期間：令和3年3月1日～3月31日

イ キャンペーンの内容

① 寄付による支援

本キャンペーンの実施にあたり、以下の企業・団体からご寄付によるご支援をいただいた。

○ご支援いただいた企業団体 計6企業・団体

株式会社AINZ、甲賀高分子株式会社、西村建設株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、滋賀県立八幡高等学校 他、1社

② ポスター掲示

期間中、以下の企業・団体等の事業所などにポスターを掲出した。

○ご賛同いただいた企業・団体 計18企業・団体

株式会社AINZ、甲賀高分子株式会社、西村建設株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、三和産業株式会社、株式会社平和堂、JA滋賀中央会・各連合会、滋賀県厚生農業協同組合連合会、株式会社滋賀県農協電算センター、滋賀県立八幡高等学校、大塚オーミ陶業株式会社、東近江市立五個荘中学校、米原市、豊郷町、社会福祉法人米原市社会福祉協議会、(順不同)

13 有功会

日本赤十字社滋賀県支部有功会は、金色有功章を受章され、趣旨に賛同された方々により、昭和48年10月1日、会員58人で発足。平成9年より銀色有功章受章者まで会員範囲を拡大し、会員相互の親睦や健康の保持、赤十字思想の普及と重要業務の進展に協力、人類福祉の増進に寄与することに努めている。

なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、集合形式による事業は中止を余儀なくされた。

(1) 会員の数（個人・法人）

前年度末会員数	本年度新規会員数	退会者 (亡くなられた方を含む)	年度末会員数
376	14	18	372

(2) 事業内容

ア 有功会総会の開催

令和2年7月7日付文書審議

審議内容

- 令和元年度有功会事業並びに収支決算報告書
- 令和2年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）
- 役員の選出について

イ 特別講演会<中止>

「骨髄バンクと“スカーレット”物語」

講師 陶芸家 神山清子氏

ウ 会員懇親会<中止>

エ 日赤紺綏・有功会会長協議会総会

令和2年9月29日付文書による審議

オ 会員親睦旅行<中止>

令和2年11月18日(木)～11月19日(木)

広島・安芸の宮島 神饌の宿 みや離宮

カ 会員健康診断

	2日（1泊）	1日
大津赤十字病院	21人	46人
長浜赤十字病院	2人	10人
合 計	23人	56人

キ 大津赤十字看護専門学校卒業生に卒業記念品の贈呈

令和2年度大津赤十字看護専門学校卒業生26人に卒業記念品〔化粧ポーチ（女性）・目覚まし電波時計（男性）〕を贈呈した。

ケ 青少年赤十字活動支援<中止>

「青少年赤十字メンバートレーニングセンター」参加記念品贈呈

コ 災害救護活動支援

災害時に救護班が携行する非常食86食を滋賀県支部へ寄贈した。

サ 国際活動事業の支援

NHK海外たすけあい 支援金額30,000円

シ 法人会員による「ACTION！防災」への協力

協力企業 5社 滋賀双葉ビル整備 株式会社

三和産業 株式会社

甲賀高分子 株式会社

大塚オーミ陶業 株式会社

西村建設 株式会社

ス 役員会等の開催

令和3年3月23日付文書審議

- 平成2年度有功会事業報告並びに収支決算について
- 令和3年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）について
- 日本赤十字社滋賀県支部有功会規程の整備について
- 役員の改選について

14 一般会計決算概要

歳 入

(単位：円)

年度 科目	令和2年度 決 算	令和元年度 決 算	比較増減	対前年度比(%)	付 記
1 一般社資収入	189,164,058	337,728,316	△ 148,564,258	56.0	
2 法人社資収入	35,230,549	31,117,341	4,113,208	113.2	
3 委託金等収入	0	2,798,053	△ 2,798,053	-	
4 補助金及び交付金収入	4,210,353	8,048,069	△ 3,837,716	52.3	財政調整交付金、施設整備交付金ほか
6 繰入金収入	50,000	0	50,000	-	事業準備積立金繰入金
7 資産収入	284,500	69,971	214,529	406.6	社宅収入、車両売却収入
8 雜収入	723,633	2,776,160	△ 2,052,527	26.1	利子収入、講習等負担金収入、青少年赤十字等行事参加収入ほか
9 前年度繰越金	28,009,904	26,939,093	1,070,811	104.0	
歳入合計	257,672,997	409,477,003	△ 151,804,006	62.9	

歳 出

(単位：円)

年度 科目	令和2年度 決 算	令和元年度 決 算	比較増減	対前年度比(%)	付 記
I 災害救護事業費	24,757,348	27,416,475	△ 2,659,127	90.3	
1 災害救護指導事業費	19,466,286	21,274,339	△ 1,808,053	91.5	救護員の養成訓練、災害救助に要した費用
2 災害救護装備費	2,087,272	2,766,505	△ 679,233	75.4	災害救護資材整備等に要した費用
3 非常災害救援物資整備費	0	216,388	△ 216,388	-	
4 救護看護師指導養成費	3,203,790	3,159,243	44,547	101.4	救護看護師の養成に要した費用
II 社会活動費	29,875,665	37,389,901	△ 7,514,236	79.9	
1 救急法等普及費	4,401,975	3,581,574	820,401	122.9	救急法、健康生活支援講習等の普及費用
2 奉仕団活動費	15,165,742	9,935,005	5,230,737	152.6	奉仕団育成に要した費用
3 青少年赤十字活動費	7,195,501	14,588,844	△ 7,393,343	49.3	青少年赤十字育成に要した費用
4 社会福祉活動費	51,680	71,720	△ 20,040	72.1	社会福祉活動に要した費用
5 医療事業費	11,708	85,815	△ 74,107	13.6	衛生普及に要した費用
6 血液事業費	3,049,059	9,126,943	△ 6,077,884	33.4	血液事業の普及等に要した費用
III 指定事業地方振興費	2,500,000	2,500,000	0	100.0	
1 災害救護設備整備費	2,400,000	2,400,000	0	100.0	災害救護資機材に要した費用
2 募集事務費	100,000	100,000	0	100.0	社資募集に要した費用
IV 地区分付金支出	14,033,039	13,434,381	598,658	104.5	地区区分に対する社員管理事務及び募集事務等に要した費用
V 社業振興費	19,740,730	19,670,936	69,794	100.4	広報及び社資募集に要した費用
VI 基盤整備交付金・補助金支出	17,756,700	6,637,479	11,119,221	267.5	
1 施設操出金	10,000,000	0	10,000,000	-	新型コロナウイルス感染症に対する県内赤十字施設への支援費用
2 使途指定寄付金操出金	7,756,700	6,637,479	1,119,221	116.9	医療施設への使途指定寄付金
VII 総務・管理費	43,885,800	36,607,070	7,278,730	119.9	給与費、庁舎管理等に要した費用
VIII 本社送納金支出	32,564,191	54,202,532	△ 21,638,341	60.1	本社社資送納金
IX その他	72,559,524	211,618,229	△ 139,058,705	34.3	
1 積立金支出	15,784,518	183,608,325	△ 167,823,807	8.6	災害等資金積立金、施設整備準備資金積立金、退職給与資金積立金ほか
2 予備費	0	0	0	-	
3 翌年度繰越金	56,775,006	28,009,904	28,765,102	202.7	
歳出合計	257,672,997	409,477,003	△ 151,804,006	62.9	

II. 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県内3つの赤十字病院において、災害時は、救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めている。

1 大津赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数			入院患者数			外来患者数			
許可病床	実働病床	医 師	看 護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一対 日 前 年 平 均 比	延 人 数	一 日 平 均	一対 日 前 年 平 均 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
684	661	231.0	808.1	429.8	1,468.9	186,974	512	85.2	344,847	1,425	89.8

(2) 医療施設の経営状況

令和2年度の医業収益は、新型コロナウイルス感染症の影響による入院患者延数および外来患者延数の減少等により対前年度約10.6億円の減収となった。対する医業費用は、材料費、給与費、経費等の減少により対前年度約3.1億円減少した。医業収支では約15.6億円の赤字、収支差引額では約2.0億円の赤字決算となった。

コロナ禍において、感染症対策や感染患者入院受入と並行しながら従来の急性期医療の提供も実施した1年であった。

① 病院経営の健全化

・重要業績指標

ア 新入院患者数 【目標：1日あたり50人以上】

実績：42.7人/日 対前年度3.9人減少

イ DPCⅡ期以内の退院割合 【目標：70%以上】

実績：64.3% 対前年度4.4ポイント増加

ウ 病床稼動率 【目標：90%以上】

実績：75.2% 対前年度6.1ポイント減少

エ 救急搬送入院率 【目標：40%以上】

実績：45.9% 対前年度2.9ポイント増加

オ 紹介患者数（検査紹介除く） 【目標：月1,600人以上】

実績：1,306人/月 対前年度194人減少

・手術件数・全身麻酔件数

手術件数 6,649件/年 対前年度223件減少

【再掲：高額手術件数 2,348件/年 対前年度208件減少】

全身麻酔件数 2,100件/年 対前年度106件減少

・広報活動の強化

県内外の協力医療機関、調剤薬局等に定期的に広報誌「NAGARA通信」を発行した。

郵送対応とともに、新型コロナ感染状況を見ながら挨拶を兼ねた開業医への直接訪問

も継続実施した。

印刷枚数：約24,000冊/年 対前年度16件増加

訪問件数：690件/年 対前年度443件減少

地域の人々とふれあい、病院を知ってもらうことを目的として開催を予定していた『ふれあい病院フェスタ』はコロナ禍のため中止とした。

② 医療の質の確保

がん医療については、がん診療連携拠点病院としての実績要件を満たすべく対応したが、コロナ禍のため対外的に予定していた一般市民向けがん関連講座「市民のためのがん講座」は中止。

一方、医療従事者向けの緩和ケア研修会は事前のe-learningとの組み合わせで集合研修を1日に短縮して実施する等の対応をした。

院内的には、業務改善による患者満足度向上を目的とした”TQM活動”の院内発表会は抄録集を作成し、院内共有を図った。また、臨床指標検討部会にて当院の臨床データ（電子カルテデータ等）を用いて他の赤十字病院との比較分析を行い、結果を職員で共有するための研修会を会議室とオンライン会議ツール（Microsoft Teams）を用いたハイブリッド開催にするなど、コロナ禍を意識した取り組みを実施した。

③ 地域との医療連携強化

地域医療支援病院として、協力医療機関登録制度の紹介等を目的に新規開業医へ関係診療科部長と共に当院の診療体制に関する情報提供を行う等コロナ禍に配慮してポイントを絞った対応を実施した。

一方、新型コロナ感染症の影響により、例年実施していた各種地域の医療従事者公開研修会や講演会等は回数を大幅に減らし、『大津赤十字病院地域医療連携懇話会』は中止とした。

患者数としては、紹介患者数（検査紹介含む）18,591人と対前年度2,518人減少、逆紹介患者数も18,012人と対前年度1,279人減少した。大津赤十字志賀病院からの紹介患者数は、799人で対前年度83人減少した。

④ 救急医療・災害医療への対応

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターとして、高度医療体制の充実に向け引き続き取り組んだ。新型コロナの影響により当院を含む大津圏域での救急車出動件数は減少傾向にあり、高度救命救急センターの救急車による搬送患者数は6,291人で対前年度841人減少、うち入院患者数は2,887人で対前年度183人減少した。一方、救急搬送入院率は過去最高の45.9%で対前年度2.9ポイント増加した。

令和2年3月に更新した新生児専用の人工呼吸器等医療機器を搭載した新生児ドクターの出動件数も、コロナ禍の全国出生数減少の影響により115件で対前年度14件の減少となった。

また、県下の基幹災害拠点病院および原子力災害拠点病院として、例年院外で開催される被爆医療研修会等の災害医療研修や、DMAT近畿地方ブロック訓練、同ロジスティック研修会等にも積極的に取り組みを実施しているが、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止・延期となる研修が相次いだ。院内で実施している「大規模災害時多数傷病者受入訓練」や災害救護活動に従事するための常備救護班訓練も密を避けるため

中止とした。

一方、行政からの依頼による新型コロナ感染症対策として様々なシーンでのスタッフ派遣等を実施した。令和2年4月の新型コロナウイルス感染症患者宿泊療養施設（ピアザ淡海）の運用立ち上げやクラスターが発生した医療施設における医療救護活動および運営体制支援を始め、現在も継続中である滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへDMAT隊員（滋賀県災害医療コーディネーター）を派遣した。

その他、滋賀県主催の防災訓練として令和2年9月東近江市地域（布引体育館）における滋賀県総合防災訓練、令和2年11月高島B&G海洋センターにおける滋賀県原子力防災訓練に救護班やコントローラー（訓練調整役）を派遣した。

⑤ 人材育成と確保、職場環境の改善

自院の将来を担う人材の確保並びに人材育成を引き続き推進した。また、長時間労働の解消・改善を目的に新たな出退勤管理システムを導入し、各部署（医師を除く）の所属長が課員の年休取得状況や時間外労働を把握することが容易になった。

⑥ 目の愛護デー

例年実施している10月10日の厚生労働省が主唱する「目の愛護デー」のイベントは、新型コロナ感染症のため中止となった。

⑦ 赤十字県民大学の開講

県民の方々の健康管理のための医療講話として毎月1回開催の赤十字県民大学も中止とした。

⑧ 施設設備整備

ア インフラ整備

滋賀県からの要請を受け、新型コロナ感染症患者専用病床として、令和2年4月に重症患者用（ICU扱い）4床、令和3年2月に軽症～中等症患者用（一般病棟扱い）として16床確保のため、改修工事を実施した。また、新型コロナ感染症疑い患者対応用の医療用コンテナ（モバイルクリニック）等の設置を行った。

それ以外は、新型コロナ感染症拡大防止のため令和元年度より予定していた内視鏡センター移転改修工事を含め令和3年度へ見送りとした。

イ 病院機能の強化及び療養環境の充実

一般病棟における個室希望の患者ニーズを鑑み、有料2人部屋の個室化整備（58室）を実施した。

(3) 決算概要

収益的収入及び支出

(単位：千円)

科 目	令和2年度決算額	令和元年度決算額	比較増減	対前年度比%
病院収益	21,567,395	21,437,048	130,347	100.6
医 業 収 益	19,694,708	20,755,723	△ 1,061,015	94.9
医 業 外 収 益	1,804,403	610,007	1,194,396	295.8
医療社会事業収益	0	0	0	-
付 帯 事 業 収 益	65,377	71,318	△ 5,941	91.7
特 別 利 益	2,907	0	2,907	-
病院費用	21,772,013	22,130,639	△ 358,626	98.4
医 業 費 用	21,260,819	21,575,046	△ 314,227	98.5
医 業 外 費 用	154,712	174,851	△ 20,139	88.5
医 療 奉 仕 費 用	201,262	216,721	△ 15,459	92.9
付 帯 事 業 費 用	147,081	152,638	△ 5,557	96.4
特 別 損 失	7,564	10,038	△ 2,474	75.4
法 人 税 等	575	1,345	△ 770	42.8
収支差引額	△ 204,618	△ 693,591	488,973	

資本的収入及び支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	367,391	固定資産	681,130
その他資本収入	464,552	借入金等償還	150,813
計	831,943	計	831,943

2 大津赤十字志賀病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数			入院患者数			外来患者数			
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他の	計	延人数	一日平均	一対日前平年均比	延人数	一日平均	一対日前平年均比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
150	150	20.0	87.0	60.0	167.0	34,403	94.2	71.8	52,854	219.3	63.7

(2) 医療施設の経営状況

令和2年度は医業収益が12.6%の減収であり、内訳としては入院診療収益マイナス17.5%・外来診療収益マイナス6.6%・保健予防活動収益マイナス2.9%であった。医業費用は1.1%と増加したが、材料費は2.0%減少し、給与費は1.8%増加し対収益84.3%と高い状況である。

新型コロナウイルス感染症拡大により、急性期病棟である2階50床を受け入れ病棟したことや、外来患者数の減少もあり、その結果、医業収支は4億3千5百万円の大幅なマイナスとなったが、総収支は県・大津市保健所等の行政からの要請に積極的に応えることで、結果的に各方面よりの手厚い補助事業を受けている事となり、総収支は6億3千6百万円の黒字となった。

① 医師及び看護師の確保

医師は内科1人増員があったが、年度内に内科医師1人の減員があったため令和2年度としては増減がない状態であった。看護師は1人の採用者に対し、離職者は5人であった。

② 健全経営の推進

地域包括ケア病棟は年間平均82.3%の稼働率を維持できたが、急性期病棟は感染症対応したこともあり年間平均28.5%、療養病棟は77.7%と落ち込んだ。

また、外来診療収益においても継続的な患者数減による影響で伸び悩んだ。

③ 病院機能のあり方

2025年超高齢化社会の到来に対応するために、急性期（2F50床）、回復期（3F50床）、慢性期（4F50床）の届出を行い、病棟運営を行っていたが、療養病棟の安定稼働には至らず、また急性期病棟や回復期病棟の安定的運営を目指し、今後も救急医療や地域連携に取り組んでいきたい。

また、新型コロナウイルス感染症対応等に見られた、行政からの要請は積極的に対応を行った。

④ 施設整備・修繕、医療器械の新規購入・更新

平成14年の開院以来使用している非常発電装置の大修繕を行った。

新型コロナウイルス感染症患者受入れのために簡易陰圧装置（ミンティー）4人部屋2室と、外来診察室と個室の陰圧化の工事と陰圧車いすの導入、新型コロナウイルスに特化したUV滅菌装置等の導入を行った。

⑤ 病診連携を図り地域医療の確保

平成26年1月よりスタートした医療従事者を対象としたOK（大津北の方）ミーティングはWeb会議となり開催された。

⑥ 地域住民との交流

平成28年度からの取組みを継続して「志賀日赤の健康教室」を年5回開催し、そのうちの1回を社会福祉協議会志賀ブロックと共に開催していた健康いきいき祭り等は全て中止となった。

また、当院発行の広報誌「志賀日赤だより」の地元自治会のご協力を得て行ってきた全戸配布は堅田及び日吉台地域を除き継続して行った。

⑦ 初期研修医教育及び学生実習

大津赤十字病院より初期研修医の地域医療の実習を1ヶ月交替にて14人の研修医を受け入れた。

また、自治医科大学、滋賀医科大学の学生実習は新型コロナウイルス感染症拡大により受け入れは中止となった。

⑧ 災害救護活動への参加

災害救護訓練はすべて中止となったが、新型コロナウイルス感染症の拡大は災害であると捉えて帰国者・接触者外来・新型コロナウイルス感染症陽性者受入(20床→22床)、地域検査センター(ドライブスルーPCR検査)と、行政からの要請は全て応えて病院をあげて取り組んだ。

(3) 決算概要

収益的収入及び支出

(単位:千円)

科 目	令和2度決算額	令和元度決算額	比較増減	対前年度比%
病院収益	2,883,156	2,145,194	737,962	134.4
医 業 収 益	1,779,571	2,035,876	△ 256,305	87.4
医 業 外 収 益	1,102,871	93,820	1,009,051	1175.5
医療社会事業収益	0	0	0	-
付 帯 事 業 収 益	0	0	0	-
特 別 利 益	714	15,498	△ 14,785	4.6
病院費用	2,251,851	2,280,092	△ 28,241	98.8
医 業 費 用	2,215,380	2,190,845	24,535	101.1
医 業 外 費 用	1,826	1,764	62	103.5
医 療 奉 仕 費 用	34,530	15,530	19,000	222.3
付 帯 事 業 費 用	0	0	0	-
特 別 損 失	115	71,722	△ 71,607	0.2
法 人 税 等	0	231	△ 231	-
収支差引額	631,305	△ 134,898	766,203	

資本的収入及び支出

(単位:千円)

収 入		支 出	
固定負債	40,587	固定資産	41,910
その他資本収入	1,495	借入金等償還	172
計	42,082	計	42,082

3 長浜赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他の	計	延人数	一日平均	一対日前平年均比	延人数	一日平均	一対日前平年均比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
492	491	92.0	572.0	249.0	913.0	136,629	375	88.8	215,018	885	90.8

(2) 医療施設の経営状況

令和2年度は、入院・外来診療単価の増加はあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、入院・外来患者数共に減少した結果、医業収益については、対前年度約2億7千9百万円の減少となった。入院診療単価の増加要因として、①平均在院日数の短縮②診療報酬改定によるDPC係数のUP③新型コロナウイルス関係の診療報酬の算定④泌尿器科手術件数の増加が挙げられる。また、外来診療単価の増加要因としては、①院内トリアージ実施料の算定②長期投与の算定（前年度比10%増）が挙げられる。

医業費用については、委託費の増加はあったものの、材料費・給与費・設備関係費・研究研修費・経費が減少となった。材料費では、新型コロナウイルス感染防止対策による診療材料費の増加はあったが、入院・外来患者数の減少により、医薬品費・給食材料費が減少し、対前年度約2億9千2百万円の減少となった。

収支差引額としては、医業収支では2億円の赤字となったが、退職給付引当金の減少や新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金等により、総収支差引としては、25億1千万円の黒字決算となった。

① 経営健全化の推進

病診連携体制を推進し、地域の医療機関との連携体制を図るとともに、湖北地域の中核病院として急性期医療を推進し、不要不急の費用の節減に努め、より一層の経営改善に努める。

② 新型コロナウイルス感染防止対策の強化

入院患者への面会禁止、院内トリアージの徹底、緊急入院患者への新型コロナウイルス抗原定量検査および一部術前PCR検査を実施した。

新型コロナウイルス感染症重点医療機関として受け入れ病床20床（うち重症5床）を確保した。

帰国者・接触者外来には保健所や地域の開業医等から平日休日を問わず外来患者を受け入れると共に、行政検査にも委託検査機関として週3、4回対応した。

住所を問わず中等症の患者の直接の入院や、他病院からの重症化の兆しのある患者の転院を受け入れた。

③ 原子力災害医療の強化

滋賀県基幹原子力災害拠点病院の指定を受けており、国の補助金を財源として原子力災害対策施設の新築。最寄りの原子力事業所から最短距離で約45kmに位置しており、災害対策として大規模災害マニュアルを策定し、院内原子力基礎研修、防護服着脱研修などの原子力災害医療研修をおこなった。

④ 災害救護体制の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により、例年どおりの研修および訓練はできなかったが、滋賀県総合防災訓練への参加、救急法講習会の開催を実施するなど、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しながら、災害体制の充実・強化を図った。

⑤ 周産期医療体制の整備

市立長浜病院における分娩（お産）等の一時休止を受けて、地域周産期母子医療センターとして分娩室・陣痛室の改修工事を行い、湖北・湖東医療圏における医療機関との連携を図った。

⑥ 赤十字県民大学中止について

滋賀県支部と長浜赤十字病院は滋賀県と長浜市、米原市の後援を得て、県民の方々の健康管理のための医療講話として、例年赤十字県民大学を開講しているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症流行に伴い中止となった。

(3) 施設等整備

施設整備としては、補助金を財源として原子力災害対策施設の新築を行った。また7東病棟産婦人科の分娩室・陣痛室の改修工事、老朽化した空調改修工事、熱源改修工事を行った。

機器整備としては、医療用器械備品を、一部補助金を財源とし、眼底カメラ・膀胱腎盂ファイバースコープ（支部繰入金）、免疫測定システム ルミパレス他2点（PCR検査機器等設備整備）、人工呼吸器他4点（滋賀県感染症外来協力医療機関等設備整備）、分娩台マミージョイ他29点（新型コロナウイルス感染症を疑う患者受入れのための救急・周産期・小児医療体制確保事業整備）、移動型X線装置他12点（新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備）、アクロスフラミンゴ ナノ（R2年度新型コロナウイルス感染症緊急支援包括整備）、ベットサイドモニター他12点（インフルエンザ流行期における新型コロナウイルス感染症疑い患者を受け入れる救急・周産期・小児医療体制整備）などを整備した。

その他器械備品は、マルチサーモディスプレイ（長浜市新型コロナウイルス感染症対策支援整備）他7点を整備した。

無形固定資産のソフトウェアは、ME器機管理システムを整備した。

(4) 決算概要

収益的収入及び支出

(単位：千円)

科目	令和2年度決算額	令和元年度決算額	比較増減	対前年度比%
病院収益	14,678,218	12,518,846	2,159,373	117.2
医業収益	11,712,186	11,991,225	△ 279,039	97.7
医業外収益	2,872,207	428,295	2,443,912	670.6
医療社会事業収益	5,282	6,046	△ 764	87.4
付帯事業収益	88,539	92,857	△ 4,317	95.3
特別利益	4	423	△ 419	0.9
病院費用	12,167,231	12,477,928	△ 310,696	97.5
医業費用	11,912,281	12,204,036	△ 291,754	97.6
医業外費用	21,622	23,190	△ 1,568	93.2
医療奉仕費用	143,937	142,494	1,443	101.0
付帯事業費用	86,099	89,840	△ 3,741	95.8
特別損失	3,292	18,289	△ 14,997	18.0
法人税等	0	79	△ 79	-
収支差引額	2,510,987	40,918	2,470,069	

資本的収入及び支出

(単位：千円)

収入		支出	
固定負債	566,132	固定資産	788,232
その他資本収入	689,655	借入金等償還	467,555
計	1,255,787	計	1,255,787

III. 血液事業概要

滋賀県赤十字血液センター

血液製剤の均質性・安全性の向上と安定供給の促進及び事業効率の改善を通じた健全な経営基盤の構築を目的として、広域血液事業運営体制が導入され、近畿ブロック血液センターの令和2年度事業方針に基づき事業を遂行した。

特に、将来にわたって安定供給を確保していくため、10代、20代、30代の若年層献血者数を増加させていく必要があり、若年層からの献血への理解を得るために、同世代の学生献血推進協議会や各種学生団体と最大限に連携し、初回献血者、複数回献血者数の確保を積極的に行った。

医療機関から発注される赤血球製剤の95%以上が400mL製剤であることから、400mL献血を推進した結果、全血献血に占める400mL献血の比率は96.3%となった。あわせて、稼働効率（1稼動あたりの採血数）は事業効率に直結し財政基盤の安定化に不可欠であることから更なる向上を目指した結果、移動採血1稼動あたり採血数は52.8人となった。

本年度の献血者数は53,176人となり前年度比106.2%となった。輸血用血液製剤の供給数は160,979単位で前年度に比べ91.8%となった。

全血採血に優位な滋賀県の採血環境から、成分採血における自給率は低いものの、分割血小板採血の増加等により、近畿ブロック血液センターからの採血指示に基づく採血を実施し、県内医療機関には安定的に輸血用血液製剤を供給した。

(1) 献血及び供給状況の推移

年 度	献血状況		供給状況	
	献血者数 (人)	対前年比 (%)	供給数 (単位)	対前年比 (%)
平成24年度	46,725	98.6	182,660	102.7
平成25年度	47,297	101.2	183,668	100.6
平成26年度	46,069	97.4	182,680	99.5
平成27年度	46,378	100.7	182,512	99.9
平成28年度	45,572	98.3	184,755	101.2
平成29年度	47,057	103.3	181,529	98.3
平成30年度	47,785	101.5	160,605	88.5
令和元年度	50,073	104.8	175,300	109.1
令和2年度	53,176	106.2	160,979	91.8

(2) 令和2年度採血の実績

献血者数

	計画 (人)	実績 (人)	達成率 (%)	対前年度比 (%)
200mL献血	665	1,550	233.1	118.2%
400mL献血	36,953	39,785	107.7	104.2%
血漿献血	6,356	6,883	108.3	120.8%
血小板献血	4,741	4,958	104.6	101.4%
計	48,715	53,176	109.2	106.2%

※ 400比（全血献血に占める400mL献血の比率） 96.3%（令和元年度：96.7%）

(3) 令和2年度供給の実績

供給（県内医療機関への供給単位数）

	計画（単位）	実績（単位）	達成率（%）	対前年度比（%）
全 血 製 剤	0	0	-	-
赤 血 球 製 剤	62,000	59,843	96.5	95.4%
血 漿 製 剤	20,000	17,281	86.4	86.0%
血 小 板 製 剤	80,000	83,855	104.8	90.7%
計	162,000	160,979	99.4	91.8%

※ 血液製剤は、200mL相当を1単位とした換算数である。

(4) 滋賀県における献血／供給比率

赤血球製剤

年 度	献 血（単位）	供 給（単位）	献血／供給（%）
平成23年度	66,371	62,550	106.1
平成24年度	69,241	62,206	111.3
平成25年度	67,937	61,737	110.0
平成26年度	68,517	62,374	109.8
平成27年度	72,319	63,611	113.7
平成28年度	70,753	63,625	111.2
平成29年度	74,468	64,699	115.1
平成30年度	75,092	61,669	121.8
令和元年度	77,663	62,744	123.8
令和2年度	81,120	59,843	135.6

血小板製剤

年 度	献 血（本）	供 給（本）	献血／供給（%）
平成23年度	6,729	9,143	73.6
平成24年度	5,957	9,749	61.1
平成25年度	7,298	9,483	77.0
平成26年度	6,885	9,564	72.0
平成27年度	6,261	9,664	64.8
平成28年度	5,972	10,052	59.4
平成29年度	5,518	9,484	58.2
平成30年度	5,182	7,802	66.4
令和元年度	4,889	9,156	53.4
令和2年度	4,958	8,340	59.4

※ 平成26年度より血小板高単位献血（20単位）からの分割製剤（10単位2本）施行

(5) 献血推進の取組み

① 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行われた。当県では例年「献血功労者表彰式を開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。※各団体および個人に対する表彰は例年同様に実施し、記念品等は郵送にて対応した。

② 全国学生献血キャンペーン

滋賀県学生献血推進協議会が7月に「学生サマー献血キャンペーン」を、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」をいずれもJR近江八幡駅において開催した。血液が不足する時期でのキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけた。

③ はたちの献血キャンペーン

令和3年1月1日から2月28日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て、山之内すず、ペこばをキャンペーンキャラクターに起用し実施した。

滋賀県赤十字血液センターは滋賀県と協力し、期間中にご協力いただいた10代・20代（高校生除く・先着500人）の方にポケットサーモボトルをプレゼントするなど若年層を中心とした献血の推進に努めた。

④ 若年層対策事業

滋賀県赤十字血液センターは若年層確保対策事業として、滋賀県と協働した取り組みを行っている。

<キャンペーンの実施>

計3回、学生を対象としたキャンペーンを実施した。

①期間：7月～8月 対象：学生（先着350人）

記念品：シャープペンシル「クルトガ」 主催：滋賀県

②期間：10月～11月 対象：高校生（先着500人）

記念品：グリコお菓子セット 主催：血液センター

③期間：12月～3月 対象：高校生（先着500人）

記念品：モバイルバッテリー 主催：滋賀県

<高校における移動採血の推進>

令和2年度は移動採血実施校数：14校（前年度比-1校）、校内献血における献血者数：693人（前年度比-31人）と、コロナ禍の影響から微減となった。また、10代献血者数は2,534人（前年度比-114人）であった。令和2年度10代献血者数の都道府県別計画人数に対する達成率は全国6位であり、全国的には健闘した数字であるといえる。

⑤ コロナ禍における献血者確保

新型コロナウイルス感染症の流行により、3月～5月頃には移動採血会場の確保が困難を極めた。4月16日には全国に緊急事態宣言が発出され、県内の複数の商業施設も臨時休業となったことから、4月18日・30日・5月6日の3回にわたり滋賀県赤十字血液センターに献血バスを配車した。事前に近隣住宅街へ職員によりポスティングチラシ約2,000枚を配布、また電話による依頼のべ5,000件などの対策により、必要献血者数の確保に努めた。結果、計135人にご協力いただいた。

